

自分に気付き、未来を築く

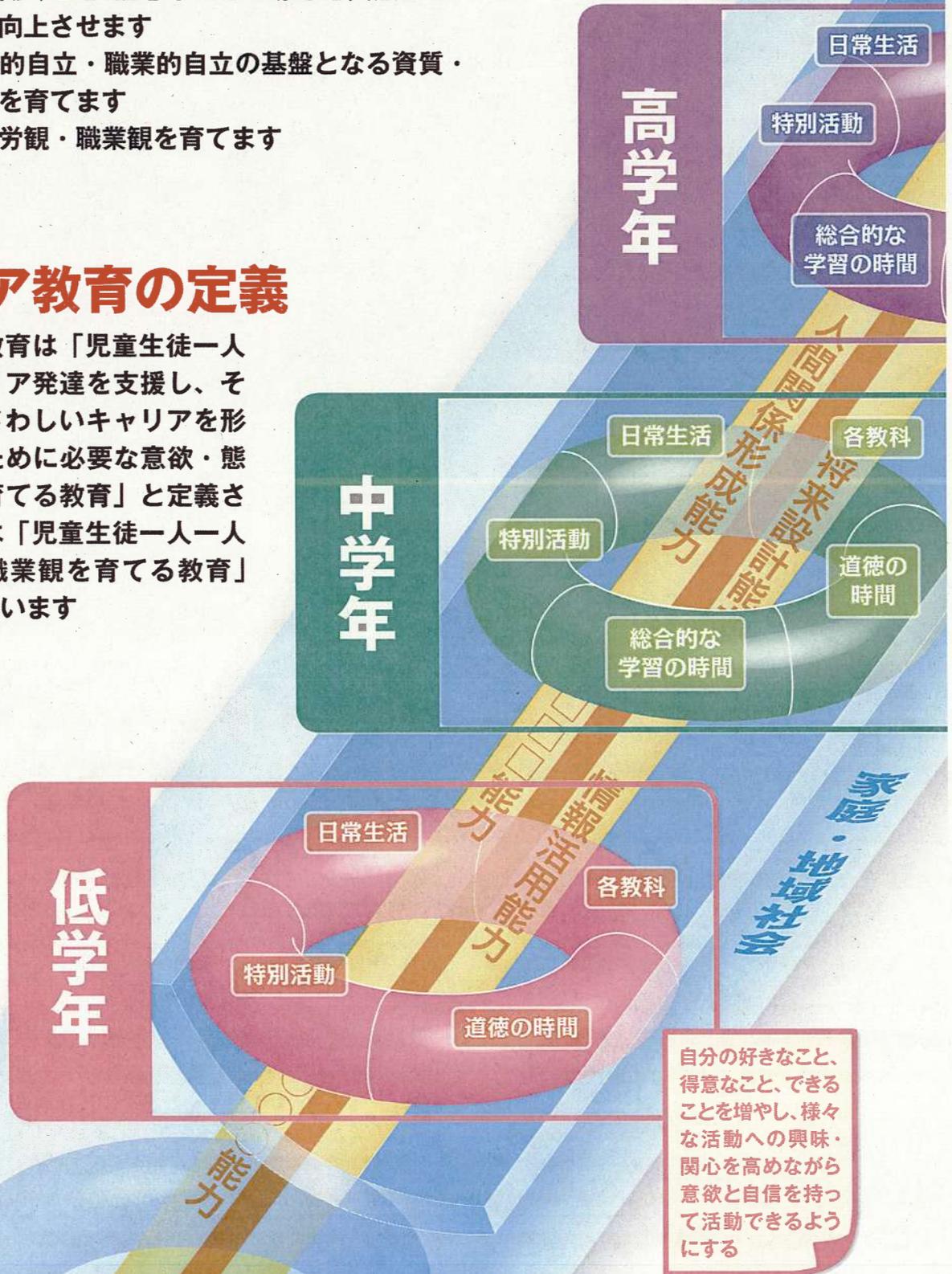
— 教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、系統的にキャリア教育に取り組み、

キャリア教育が目指すもの

- ▶ 一人一人のキャリア発達を支援します
- ▶ 学ぶことや働くこと、生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲を向上させます
- ▶ 将来の社会的自立・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます
- ▶ 望ましい勤労観・職業観を育てます

キャリア教育の定義

キャリア教育は「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、端的には「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とも言われています



キャリア教育

キャリア教育の
全体像

進路の選択・探索にかかる基盤を形成する

小学校における キャリア教育の目標

- ▶自己及び他者への積極的関心の形成・発展
- ▶身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上
- ▶夢や希望、憧れる自己イメージの獲得
- ▶勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成

各教科

道徳の時間

外国語活動

苦手なことや初めて経験することに失敗を恐れず取り組み、そのことが集団の中で役立つ喜びや自分への自信につながるようにする

友達のよさを認め、協力して活動する中で、自分の持ち味や役割を自覚することができるようにする

キーワード 「キャリア」

「キャリア」の語源

「キャリア」(career) は中世ラテン語の「車道」を起源とし、英語で、競馬場や競技場におけるコースやそのトラック(行路、足跡)を意味するものであった。そこから、人がたどる行路やその足跡、経歴、遍歴なども意味するようになり、このほか、特別な訓練を要する職業や生涯の仕事、職業上の出世や成功をも表すようになった。(中略)

なお、遺伝子の保有者、伝染病の保菌者などを指す「キャリア」(carrier) は、運ぶ(carry)からの派生語であり、違う語源の単語である。

(厚生労働省「キャリア形成を支援する労働政策研究会」報告書(平成14年7月)より)

「キャリア」の定義

個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積

「キャリア」とは、一般に生涯にわたる経歴、専門的技能を要する職業についていることなどのほか、解釈、意味付けは多様であるが、その中でも共通する概念と意味がある。それは、「キャリア」が、「個人」と「働くこと」との関係の上に成立する概念であり、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも家事や学校での係活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立場や役割を遂行する活動として幅広くとらえる必要がある。

(文部科学省「小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引」(平成18年11月)より)